纒　向　遺　跡

—昭和56年度遺跡範囲確認発掘調査概報—

桜 井 市 教 育 委 員 会

序

私達の桜井市に存在する纒向遺跡は、市の平坦地域の北部に位置し、巻向川によって形成された扇状地にあります。この遺跡では、古墳時代前期を中心に、縄文式時代後・晩期より平安・鎌倉時代に渡り人々が生活を営んできた足跡が残されています。この遺跡の中心となる時代は、大和に（特に本市にある箸墓を始め、茶臼山古墳やメスリ山古墳等）巨大な前方後円墳が築造されはじめた時代であります。このことは、この地方に強力な勢力を持った集団が存在したことを物語っているのでありましょう。又この遺跡は、この地に限らず畿内及び西部瀬戸内から、山陰、東海地方との交流があったことが、出土遺物からも推し量ることができます。このように纒向遺跡が古墳を築造しはじめる時代を知るうえで重要な遺跡であります。しかし、この地は原始の時代から人々が生活の基盤とした様に宅地には適した地域であるため徐々に宅地化が進み、その保護、究明が急務となりましたので、昭和54年度より国庫・県費補助を受け発掘調査を継続しております。発掘調査を実施するにあたりましては、土地所有者を始め地元の方々の御協力をいただきましたことを感謝いたします。

昭和57年３月

桜井市教育委員会
教育長　西　村　　司

例　　言

1　本概要報告書は、昭和56年４月から昭和57年３月の間、昭和56年度国庫補助事業として、桜井市が事業主体となり桜井市教育委員会が実施した纒向遺跡内の発掘調査及び立会調査の概要である。

2　本概報には、主として巻之内　番地字ババサキ地区の調査資料を記した。他の地域の資料は未整理であるため記載できなかった。

3　調査において、土地所有者の方々をはじめ地元の方々の援助があった。

4　本年度実施した調査地区は６ケ所であり内Ａ・Ｃ・Ｆの３ケ所で発掘調査を実施し、他は立会調査とした。

5　各調査の所在地番、調査期間はつぎのとおりである。

Ａ調査地区

∘大字巻之内410－１・２、411－１・２番地字ババサキ地区（辻　啓子氏所有水田、小西末治氏借用地）

∘昭和56年７月８日～９月30日

Ｂ調査地区

∘大字巻之内366－２番地（北島　昇氏所有水田）

Ｃ調査地区

∘大字東田269－１番地字ハシリ田地区

∘昭和57年１月20日～２月20日

Ｄ調査地区

∘大字辻　消防用防火水槽用地

∘昭和57年２月１日

Ｅ調査地区

∘大字東田　消防用防火水槽用地

∘昭和57年２月３日

Ｆ調査地区

∘大字辻24番地他（旧纒向幼稚園跡地）

∘昭和57年１月25日～３月31日

調査関係者

調査指導

奈良県立橿原考古学研究所

事務局

桜井市教育委員会事務局

教育長	西村　司
教育次長	嶋岡　一郎
社会教育課長	石本喜代次
社会教育課	中西　貞夫
〃	萩原　儀征
〃	新屋敷啓順
〃	村社　仁史

調査員

文化財係長　技師　萩原儀征

文化財係　臨時職員　村社仁史

調査補助員

立命館大学学生	山田清朝、桜庭裕和、伊庭　功
桃山学院大学学生	狩田恭弘
神戸商大	羽田佳代
近大付高生徒	仲野和正

調査作業員

植田光雄、植西キヨ、北西利子、嶋岡道子、辻　綾子、辻　和子、中森義雄、藤本ミサオ、堀井甚五郎、堀内和江、堀内安子

植物質遺物の調査

関西外語大学教授　嶋倉巳三郎

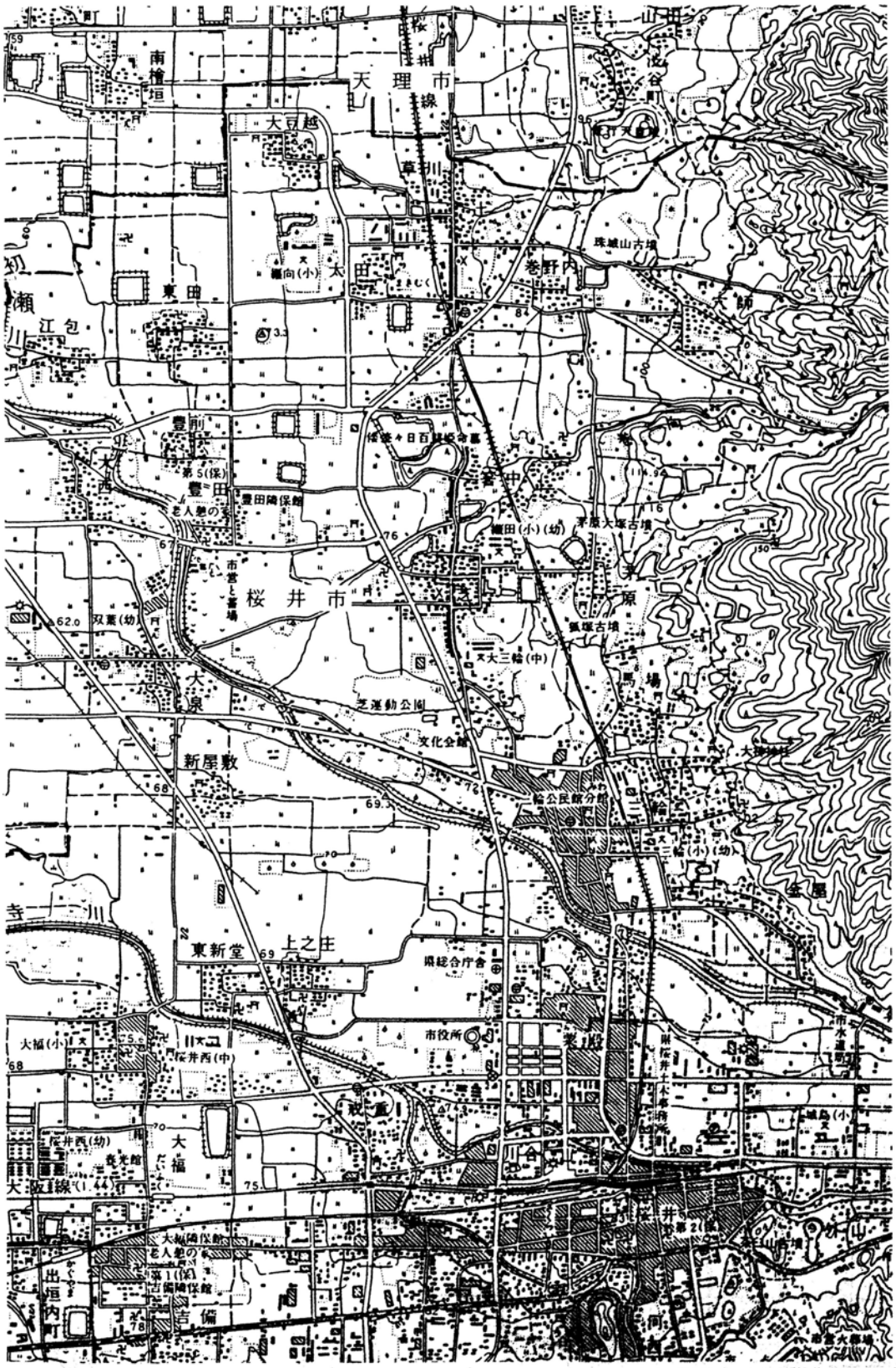

天理市
桜井市
南檜垣
大豆越
草川
東田
江包
豊前
大西
豊田
豊田隣保館
老人塾の家
市営と畜場
双葉(幼)
大泉
新屋敷
東新堂
上之庄
寺川
大福(小)
桜井西(中)
桜井西(幼)
大福
大和線
出垣内町
吉備
大福隣保館
第1(保)
吉備隣保館
巻野内
大師
珠城山古墳
大三輪(中)
馬場
文化会館
芝運動公園
三輪公民館分館
三輪(小)(幼)
金屋
県総合庁舎
市役所
巻向
川合
城島(小)
竹山
竹山古墳
穴師大墓場

図1　S = 1/25000

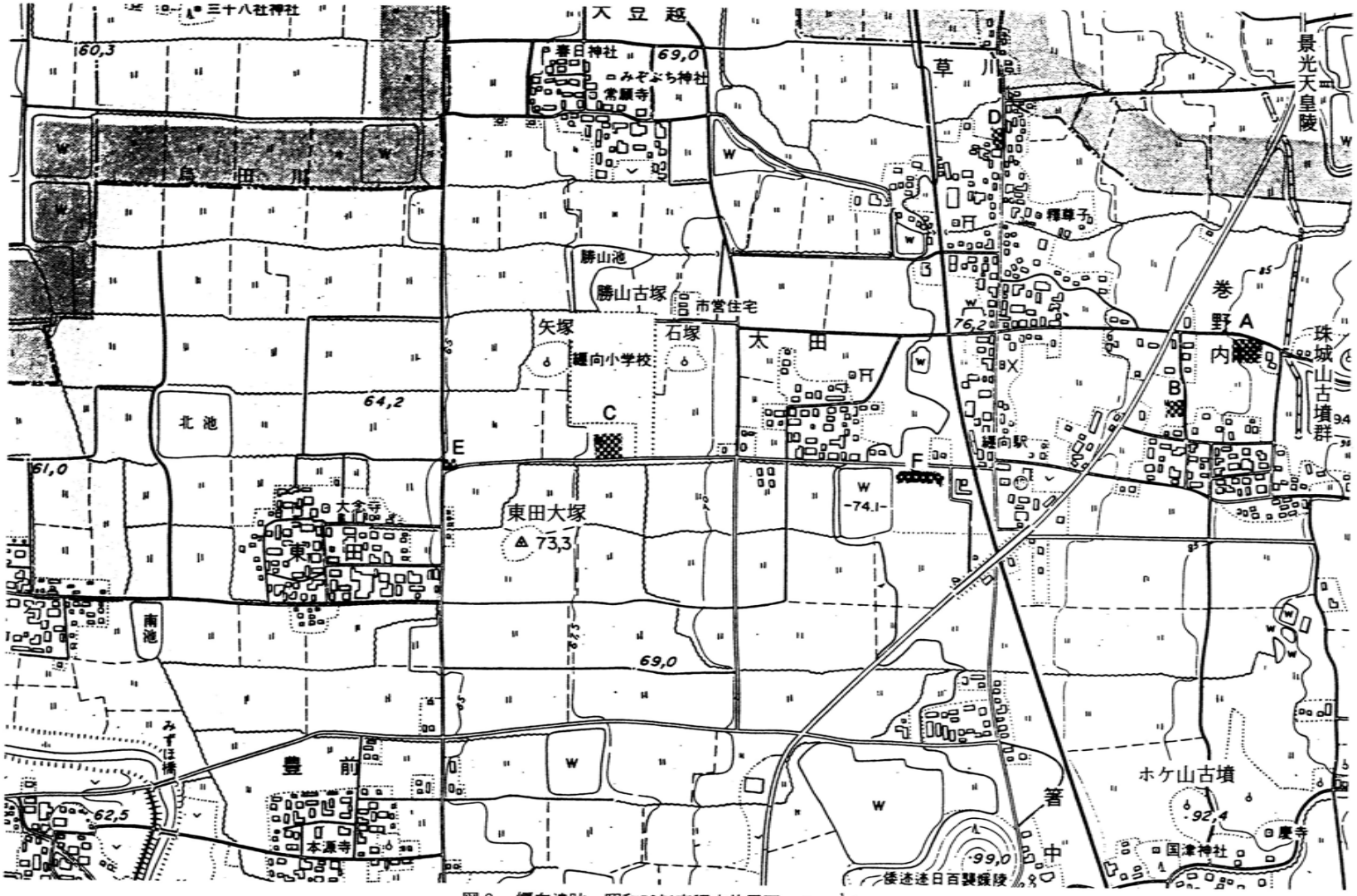


図2　纒向遺跡　昭和56年度調査位置図　S＝1/10000

ババワキ地区

Ⅰ　環　境

ババワキ地区の周辺には柳本古墳群の景行陵が、北約400ｍにあり、柳本古墳群南部に位置を占めている史跡珠城山古墳群は調査地区の東に近接している。又、調査地周辺は垂仁天皇の纒向珠城宮伝承地であり、市道を隔て北側にその伝承地を示す石碑が建立されている。そしてその約800ｍ東方には景行天皇の纒向日代宮の伝承地として石碑が建てられている。これら伝承地の発掘調査は実施されていないが、遺物の散布は認められる。

近世においては、柳本藩の馬場と伝えられババワキとゆう小字名は、昭和55年度発掘調査した、Ａ地域が同じ字ババワキであり、共に柳本藩の馬場近接地を意味するのであろう。

調査地域の地形は、史跡珠城山古墳群に続くが造営されている丘陵に続く、昭和55年度発掘調査したババワキ地区と同じ微高地の南傾斜面に立地する。この地域は南に広がる低地において河道跡を確認しているので旧河道北岸が考えられる。

Ⅱ　調査の概要

調査は東西方向に36ｍ、幅５ｍのトレンチを設定し、必要に応じて拡張した。調査区画の設定は、南北方向をＹ軸とし、これに直交する東西方向をＸ軸とする。区画は方４ｍとし、区画名はＹ軸をアラビア数字で、Ｘ軸をアルファベットで表わした。呼称は、両軸の交点の東南方向の区画をその交点の名称を用いる。

例えば、大区画の西北角の小区画は、１Ａとなる。なお調査区域は12Ｉ北辺において、壷棺を検出したので北に約5.5ｍ、東西に約15ｍ拡張した。

Ⅲ　遺構の概要

耕作土下に耕作に伴う中・近世以後の暗渠と考えられる小溝の掘削が地山上に達し、酸化鉄分を多く含む黒褐色のいわゆる含包層は小溝間に若干遺存するのみで、中・近世以後の削平が著しく行われていたと思われる。

検出した遺構は、約２ｍの溝幅をもつ南西方向に流れる溝１、壷棺を埋納した土壙１、長方形竪穴、井戸、土壙及び小穴である。なお、調査区西方向はゆるやかな傾斜を示し、黒褐色土層内及びその下は10㎝～20㎝大の礫が多く、下部は粘質を帯び、遺構を検出できなかったことから辻旧河道北岸部の河原と考えられる。

1　溝（図版２下）

14Ｊより13Ｋに流れる幅約２ｍ、深さ約40cmの溝である。溝内堆積層は粗粒砂が主である。遺物は溝内より出土していないが、両岸部より縄文時代晩期の深鉢底部（土器図１－２）が出土しているが、溝に伴うものか不明である。

2　壷棺（図版３上・下）

12Ｊ西北角より長径約75cm短径約65cm、深さ約40cmの円形の土壙に壷棺（土器図２－３、図版16下）を埋納したもので、壷は土器肩部及び体部の一部を破壊し肩及び首部は棺を安定させる支えとして使用し、破壊した肩部及び体部の破片で蓋をしている。棺内堆積状況は、底部に粘土層がほぼ水平に堆積し、壷棺内が一時空間を保っていたことを示している。又、同層上面に土師器片（棺材片）が同層に接して落込み、又それ以上の堆積層内にほぼ水平に土器片が落込んでいるので、第５層が堆積した以後は第５層が堆積する時間より速い速度で堆積したものと思われる。副葬品は棺内及び棺外にも検出できず又、人骨等遺骸は検出できなかったが、これらの状況より埋葬施設としての壷棺として考えられる。埋葬された時期については、棺内堆積層内から須恵器甕体部の破片１点、土壙底部埋土内より蓋杯

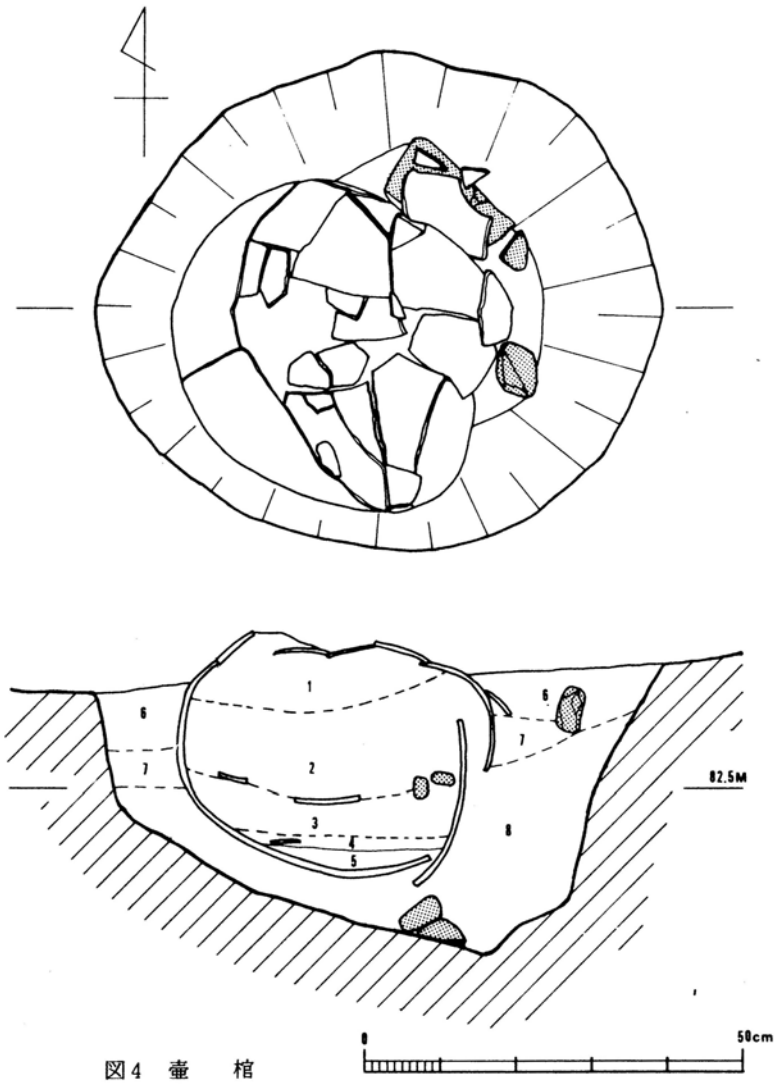


図４　壷　　棺

1　黒褐色土層Ⅰ（少し砂質を含む）
2　黒褐色土層Ⅱ（１層より黄色を帯び若干明るい）
3　黒褐色土層Ⅲ（２層と同様であるが小礫を包含する）
4　砂混り黒褐色土層
5　暗灰色粘土層
6　黒褐色砂質土層（棺内の堆積土より少し黄色を帯びた砂を多く含む）
7　暗黒褐色砂質土層
8　暗黒褐色砂質土層（少し粘質を含む）
スクリーントーンは石を示す。

身片（６世紀中葉）１点を検出しているが棺材である壷の時期とは一致しない。しかし棺材は破片を接合すればほぼ完形となることからこの時期まで遺存していたものを利用したものと考えられる。これらのことから埋葬時期は６世紀中葉以後と思われる。

３　土壙（図版４上・下）

検出面は淡黄褐色土上面である、中・近世以後の耕作等によって削平を受け掘開面はすでに除去されたのであろう。規模は長径約2.2ｍ、短径約1.9ｍ、東西方向に長い楕円形である。深さは約1.2ｍ淡黄褐色土を掘抜き径10cmから20cm大の礫を含む砂礫土層を掘開しており湧水は現在もある。しかし土壙内の堆積土は黒褐色土が主であり、腐植土層及び粘土層等いわゆる井戸状遺構より出土する土層は確認できず又、土壙内には径10～20cm大の礫の投入が著しく短期間に埋められたと思われる。土壙内出土遺物は土師器及び須恵器（土器図番号４～17）が出土しているが最下層から土師器（土器図番号15～17）が投入された礫の間より出土しておりこの時期に埋められたと思われる。

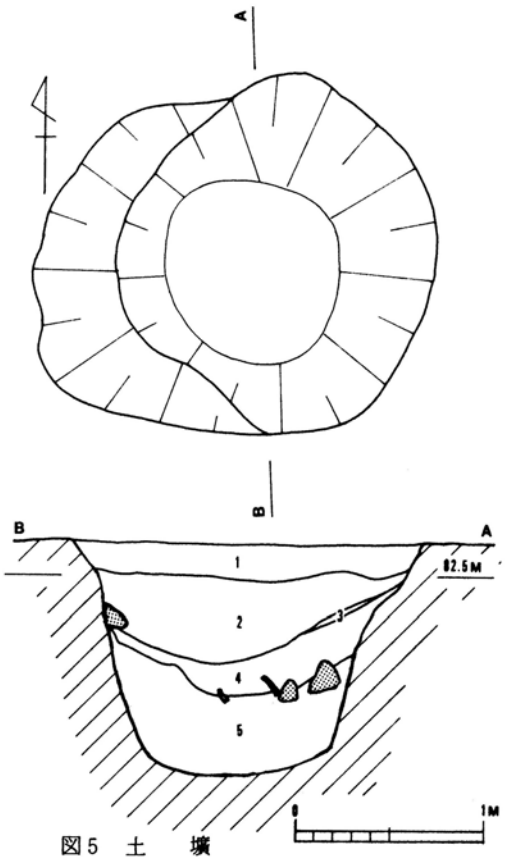


図５　土　壙

1　黒褐色土層
2　黒褐色粘質土層
3　淡黄褐色砂質土（地山土）混り黒褐色土層
4　砂礫混り黒褐色土層
5　砂礫土層
スクリーントーンは石を示す。

４　長方形竪穴（図版５上・下）

長径約3.6ｍ、短径約2.6ｍ、ほぼ南北に長い長方形の平面形である。深さは約30cm、底部はほぼ平坦である。底部周縁部には排水溝は検出できず、床面は淡黄褐色土である。この層より数cm下は砂礫層である。竪穴内には柱穴は認められず周辺部に柱が建てられたものであろう。遺構内出土遺物は須恵器（土器図番号18・19）の他若干の土器小片であるが時期は、後に記述する井戸より古く、飛鳥時代より新しい時代が考えられる。

５　井戸（図版５下、６上・下）

この井戸は、一辺約1.7ｍ、深さ約1.9ｍ、平面形はほぼ方形に近く、井戸枠を施した井戸である。底部には井戸枠を止めたと思われる杭を四角に検出した。井戸枠は最下段を検出したが、軟弱な砂礫層を掘抜いており上部にも井戸枠は施こされていたと思われる。井戸内には人頭大の礫が多

く投入されており井戸が放棄された時点で埋められたものであろう。出土遺物には黒色土器及び土師器（土器図番号20～32）が出土しており800年代末から900年代に埋められたものであろう。

6　その他の遺構

調査地域内より柱穴状遺構を検出しているが、時期の明確な遺物、他の遺構との関連等明確なものは確認できず、その性格は不明である。なお、調査地区西及び東はゆるやかに傾斜し、耕作土層下は黒褐色土と共に礫が多量に出土し、この地域の現地形が南及び西方向に傾斜し、低地が穴師の集落方向から北西方向、現在の県営住宅の北側へ続いていることから辻旧河道の北岸部に形成された河原が考えられる。河原部より出土した遺物は土師器・須恵器（土器図番号33～41）等奈良時代の遺物を包み、辻旧河道の北辺を流れる奈良時代流路の延長部と思われる。又、包含層から径約４～７㎝の小片ではあるが鉱滓片が20～30点採集しているが調査地域内で火を多用した痕跡は検出できなかった。

この地域の遺構が遺存している基盤となっている淡黄褐色土層下は礫を含んだ粗い砂層である。この層から縄文時代晩期の深鉢（土器図番号１）を検出しており、奈良時代流路は縄文時代晩期の流路と複合していることが考えられる。

小　結

この地で検出した遺構は古墳時代後期から平安時代の時期である。

辻旧河道北岸に位置し、河道北辺を流れる奈良時代の流路に近接している。地形は北東方向にゆるやかな傾斜をもって高くなっている。

包含層から鉱滓片を検出しているが火を多用した痕跡は検出できなかった。しかし大字穴師の宮生氏より穴師の集落東方にヒムロと云う地名があることを教えていただいた。森浩一氏より古代の鍛冶屋は小規模な精錬を行ったらしく、小量の鉱滓を伴う可能性があるとの御教示を受け、このことは今後の調査をまたなければならない。

この地域に推定されている垂仁天皇の纒向珠城宮であるが、これらのことから調査地域においては確認できず、地形が北へゆるやかな傾斜をもって高くなっているのでその可能性は残っている。

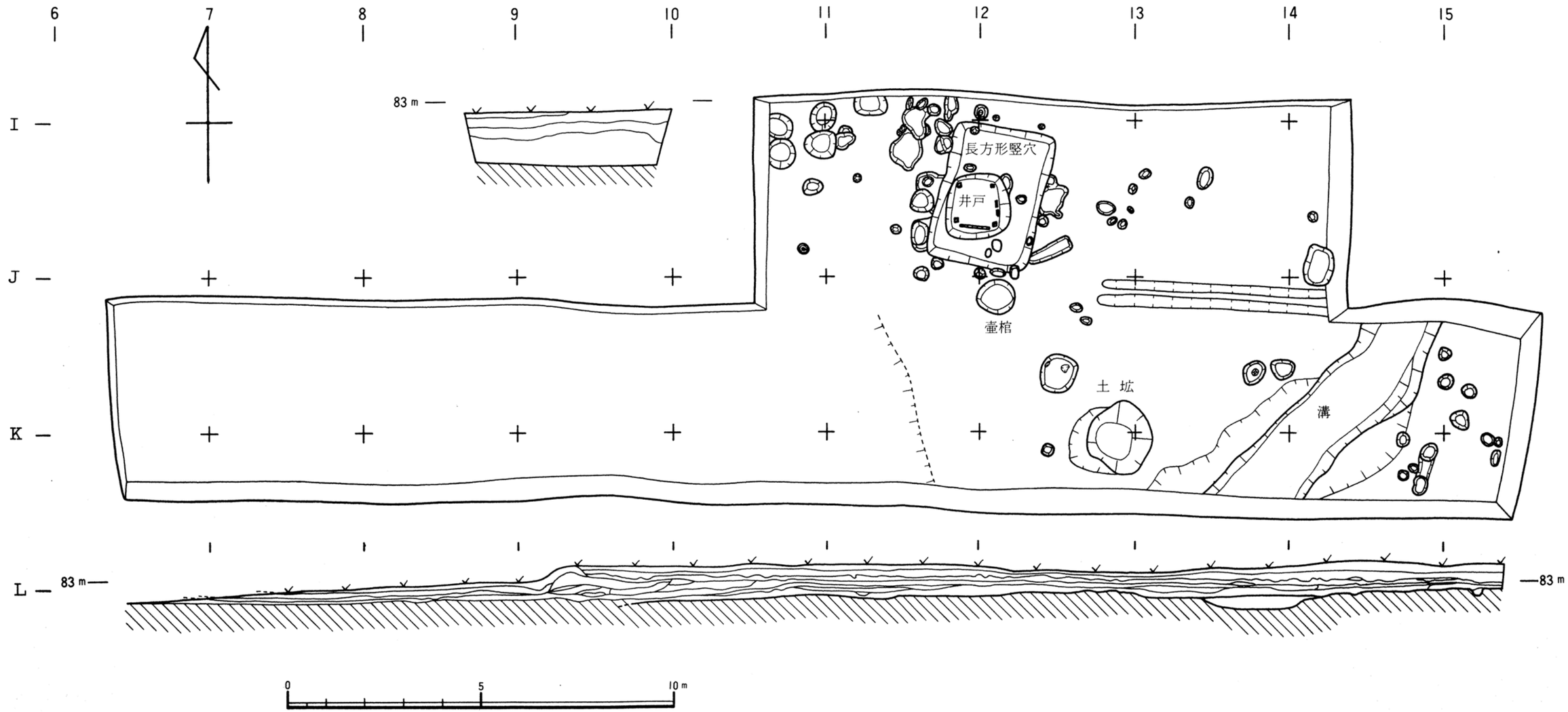


図3　ババワキ地区

ハシリ田地区（図6、図版7上・下）

Ⅰ　調査の概要

この地は昭和54年度発掘調査した村島氏所有水田の東に接し、橿原考古学研究所によって昭和46年より47年に渡り発掘調査した東田地区の大区画7Dの地域に該当する。この地域は古墳時代前期においても古い時期の遺構が多く、南溝及び北溝に挟まれた地域である。

調査の起因はこの地にテニスコートを設営する目的で農地転用届が提出されたことによる。工法は盛土によるもので遺存していると思われる地下遺構への影響を最少限に止める可能性があるので調査は、遺構の遺存状況を把握するに必要なトレンチ調査とした。トレンチは、南北方向に長さ36m、幅4m、東西方向に長さ26m、幅4m、L字形に直交するトレンチを設定したび

Ⅱ　遺構の概要

この地域での基本的な層序は、上層より耕作土、床土、黒褐色土の4層が有り、その下に黄褐色粘質土層（基盤）となる。遺構は床土層下部及び下より中・近世より現代に渡り繰り返えし設定された暗渠痕と思われる幅15～20cmの細い溝が東西及び南北方向に不規則に並び、その傾向は南北方向が比較的多く、この地域が東より西へ延びる微高地の南側傾斜地に位置することによるものであろう。この暗渠検出面以下に古墳時代前期遺構を検出することができる。古墳時代前期の遺構は、東より西方向に流れる溝4条、土壙1、柱穴等である。

溝は、ほぼ東より西方向へ流れ、溝内堆積土よりゆるやかな流路であったと思われる。

調査地区内南部の溝は（図版7、図版8上）幅約3.6mの溝であるが流路移動により拡張されたと思われる。この溝が掘削使用された時期は、溝底部より第三層以下の層より纒向三式期の土器（庄内式）を検出しており、この時期に掘開され、第三層より纒向四式（布留式）の土器が含まれているので、この時期には埋没したものと思われる。

土壙は5E区画において検出した。検出面は淡黄褐色粘質土層（地山）上面であり削平を受けていると思われるが、その規模は径約2.8m、深さ約1.2m、礫混り粗砂層を約40cm掘開しており湧水は豊かであったと思われる。

土壙内堆積土は、黒色粘土層が底部より約60cmの厚さで堆積し、その上に周縁部からの流入土が堆積している。土壙内に粘土層が厚く堆積していることは開口期間が短期間には埋没していないことを推測できる。この土壙の開口期及び埋没期は溝とほぼ同時期と思われ、底部より纒向三式期、粘土層上の堆積土より纒向四式期が出土している。

小　結

この地における遺構は纒向三式期を主とする遺構群であり、纒向四式期以後に埋没したと思われ

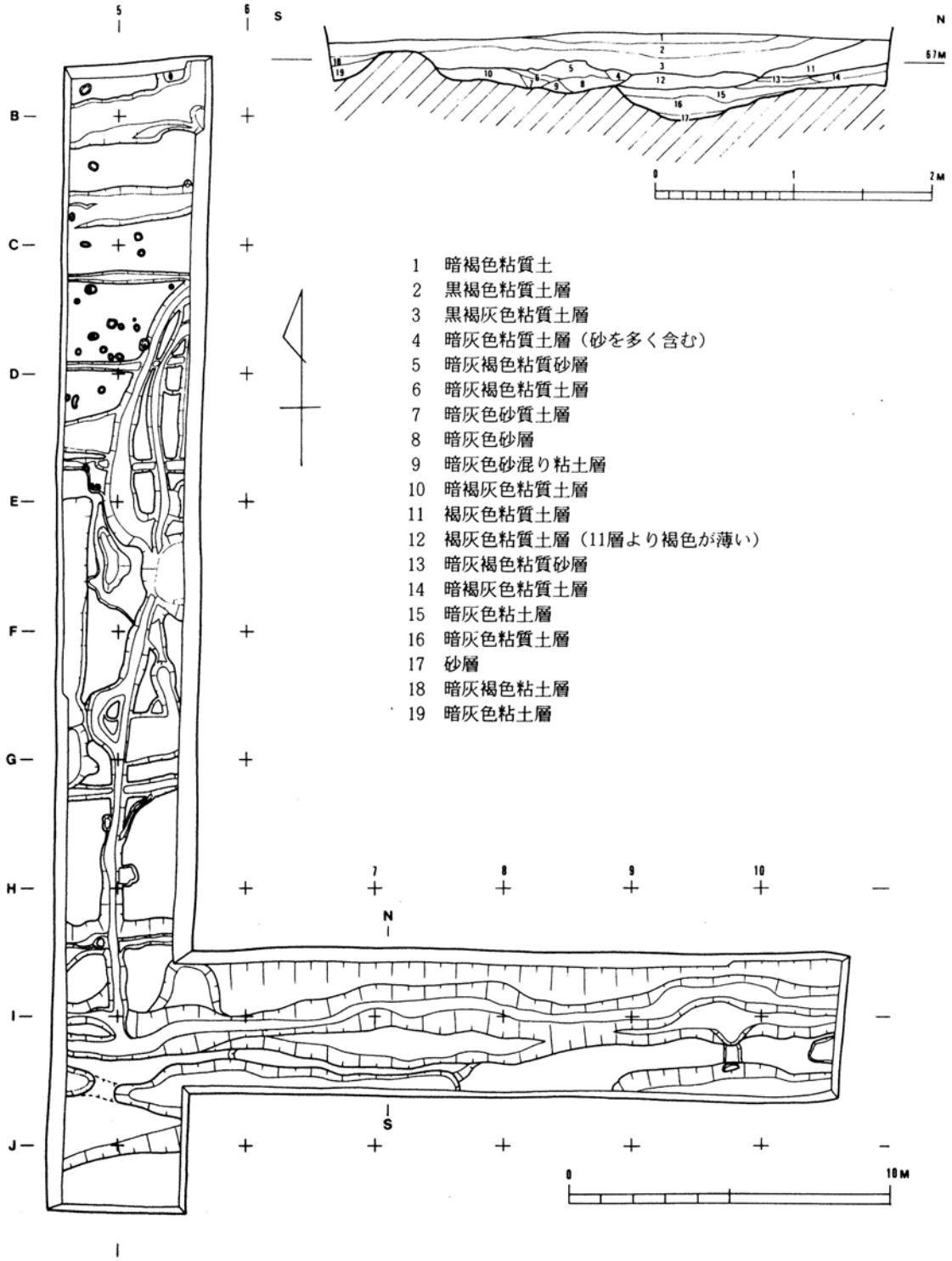


図6　ハシリ田地区遺構図

る。

溝の流れは溝内堆積層は主として粘土又は粘質土が堆積し、流れが緩やかであったことを示しており、流路延長上にある昭和54年度の調査で検出した溝は砂が主として堆積しているので同一溝でない可能性もある。

その他の調査地区

纒向幼稚園跡地の調査を昭和57年２月より３月31日の間に発掘調査した。この地は旧纒向小学校用地に接している。

調査は幅４ｍ、長さ約65ｍのトレンチを東西方向に設定し古墳時代前期の溝・土壙等を検出し、この地全域に遺構が遺存していることを確認した。今後この地について保存を含めて検討しなければならないであろう。この他、立会調査の結果よりB調査地点では辻旧河道と思われる砂礫層を確認し、辻旧河道はＡ調査地結果と合せ考えてかなり広い河幅であったと思われる。Ｄ調査地においては遺構・遺物は確認できなかったが、小範囲の調査の為纒向遺跡の範囲を確認する資料としては不充分である。Ｅ調査地においては、基盤となっている淡黄褐色粘土層及びその上に薄く黒褐色土が堆積しているのを確認したので、纒向遺跡の範囲は西へ広がると考えられる。

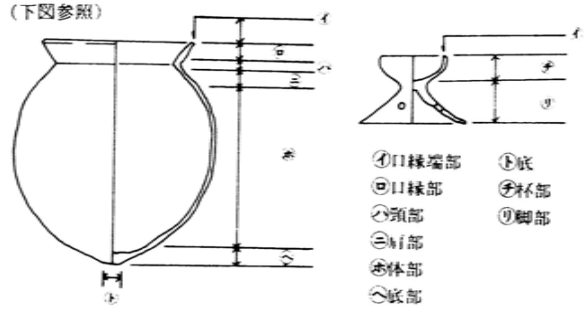
3　遺物の概要

表1　土器個体説明

註1　形態・法量は省略した。実測図によられたい。番号は実測図と一致している。図版にあるものは、その他の項に図版番号を記した。

註2　色調は主として「新版標準土色帖」によった。用語は原則として『纒向』に準拠したが「版ナデ」については、板の木口によるものといわゆる「あらい刷毛目」を含みそれ以外は「刷毛目」とし、「箆ナデ」については「箆ミガキ」より器面に加える圧力が弱く表面がナメラカなものを言う。「砂粒」については径1㎜を越える砂粒については、「粗砂」又は「粗粒砂」とし、越えないものは「細砂」とした。

土器各部の名称について
（下図参照）



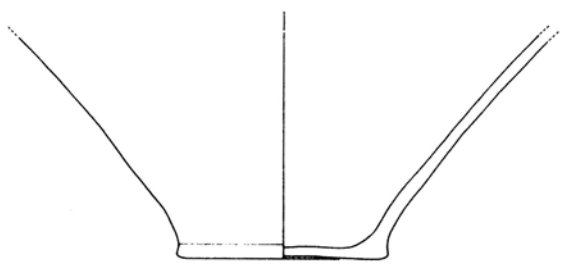
土　器　観　察　表

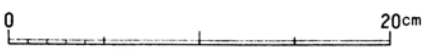
番号	器種	手法			色調	胎土	その他
		口縁部	体部外面	体部内面			
1	深鉢	外面・内面及び端部箆状の物によるナデ	胴部の最大径部より上は、箆状のものによるナデ。以下は粗成孔は内側より開ける	首部以上は箆状のものによるナデ。以下は粗成	赤褐に近いにぶい赤褐	5㎜以下の粗粒砂(石英)及び金雲母片混入	焼成良 径は復元 (図版16・上)
2	深鉢		底部外面はナデ	底部内面ナデ	赤褐に近いにぶい赤褐	4㎜以下の粗粒砂及び金雲母片混入	焼成良 底部のみ
3	壷 土師器	端部外面及び内面は櫛描波状文を加え、外面に竹管文を付した円形浮文を等間隔に付加する	箆磨き後肩部に櫛描波状文を施こす。	首部箆磨き	橙	5㎜以下の粗粒砂及び金雲母細片混入	焼成良好 (図版16・下)
4	杯 須恵器	内・外面横ナデ	体部横ナデ、底部箆ケズリ	横ナデ	灰	3㎜以下の粗粒砂混入	焼成良好
5	杯 須恵器		底部横ナデ、高台貼付	底部ナデ	灰	粗砂混入	焼成良好

6	杯 須恵器	内・外面横ナデ	横ナデ、底部は篦切り、底部周縁は回転ナデ、高台貼り付け	横ナデ	灰	粗粒砂を若干含む	焼成良好 径は反転復元
7	杯 須恵器	内・外面横ナデ	横ナデ、底部篦ケズリ	横ナデ	灰	粗粒砂を若干含む	焼成良 径は反転復元
8	蓋 須恵器	内・外面横ナデ	篦ケズリ後、口縁部周縁は横ナデ	回転ナデ	淡青灰	細砂を少し含む	焼成良好 径は反転復元
9	蓋 須恵器	内・外面横ナデ	篦ケズリ後、口縁部周縁は横ナデ	横ナデ	淡青灰	砂を少量含む	焼成良好 径は反転復元
10	杯B蓋 土師器		篦磨き後、摘みを貼付けナデを施こす	ナデ	橙灰	砂を少量含む	焼成良好
11	杯B蓋 土師器	横ナデ、外面横ナデ後、篦磨き	篦磨き	ナデ	明橙色	金雲母を若干含む	焼成良好 径は反転復元
12	杯　A 土師器	横ナデ	横ナデ	横ナデ	赤褐	細砂を含む	焼成良好 径は反転復元
13	杯　A 土師器	横ナデ	成形時の凹凸を残す	横ナデ後、暗文	橙		焼成良好 径は反転復元
14	杯　B 土師器	内面横ナデ、外面横ナデ後、篦磨き	篦磨き、底部横ナデ後、高台を貼付け、その周辺を横ナデ	上・下２段に横ナデ後、暗文。底部ナデ後、螺旋状暗文	明橙	砂混り	焼成良好
15	皿 土師器	横ナデ	横ナデ、底部成形時の凹凸を残す	横ナデ、暗文、底部螺旋状暗文	赤褐	11㎜以下の小石を含む。粗粒砂混入、金雲母微量含む	焼成良好
16	甕　A 土師器	内・外面横ナデ	縦方向荒い刷毛目、２次加熱による変色有	成形時の凹凸が残り、その上にナデ	灰橙	10㎜以下の粗粒砂を含む	焼成良好
17	甕　B 土師器	内・外面横ナデ	荒い刷毛目、肩部荒い刷毛目後横ナデ、把部貼付	成形時の凹凸が強く残り、若干のナデが認められる	橙	粗粒砂・金雲母混入	焼成良好

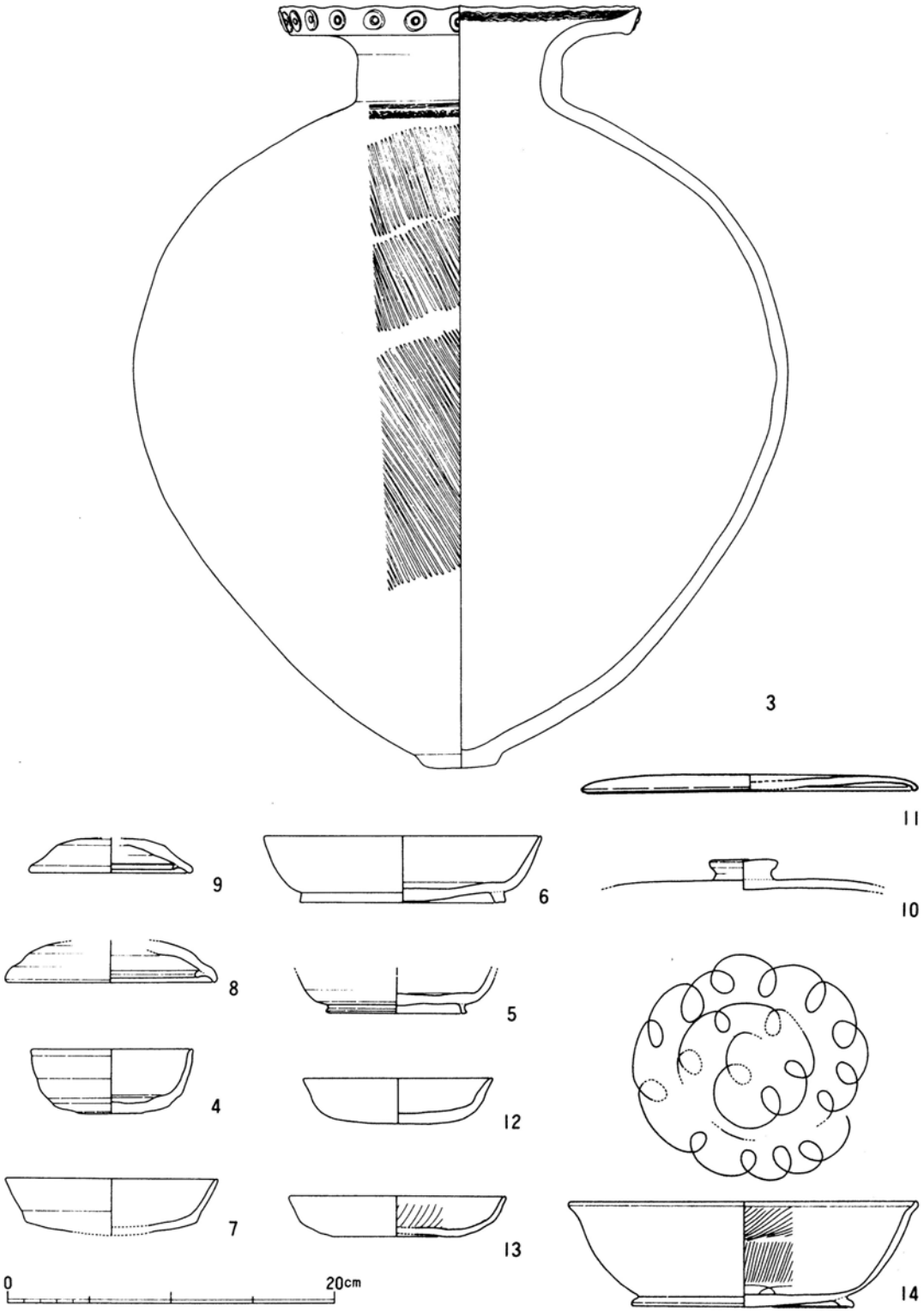
番号	器種	手法			色調	胎土	その他
		口縁部	体部外面	体部内面			
18	蓋 須恵器	内・外面横ナデ	篦ケズリ	回転ナデ	明褐灰	粗粒砂少量含む	焼成良好 径は反転復元
19	杯身 須恵器	内・外面横ナデ　蓋受部串ナデ	上部篦ケズリ後横ナデ、下部及び底部篦ケズリ	回転ナデ	明褐灰	砂混り	焼成良好
20	杯A 土師器	内・外面横ナデ	横ナデ、底部成形時の凹凸が残る	横ナデ、底部ナデ後、暗文	橙	きめ細く、雲母の細片を若干含む	焼成良好
21	杯A 土師器	内・外面横ナデ	横ナデ、½より底部は成形時の凹凸が残る	横ナデ	橙	砂少なく雲母含む	焼成良好 ヒズミが著しい
22	皿 土師器	内・外面横ナデ	横ナデ、底部篦ケズリ	横ナデ、暗文	橙灰	細砂若干含む	焼成良好 径は反転復元
23	杯A 土師器				明橙灰	粗粒砂若干含む	焼成良好 径は反転復元
24	椀 黒色土器	内・外面横ナデ	篦ミガキ	横ナデ	橙	細砂少量含む	焼成良好 径は反転復元
25	甕 B_3 土師器	内・外面横ナデ	胴部以上横ナデ、胴部以下篦ミガキ、タガ部貼付、タガ以下ススス付着	成形時の凹凸が残る	暗橙色	5㎜以下の粗粒砂混入	焼成良好 径は反転復元
26	鉢 土師器	内・外面横ナデ、端部内側におりまげる	篦ナデ、ススス付着	成形時の凹凸残る。若干ススス付着	ややにぶい赤褐	粗粒砂・雲母若干混入	焼成良好 径は反転復元
27	杯C 黒色土器	内・外面横ナデ	暗文状篦ナデ	暗文状篦ナデ	橙	細砂を少し含む	焼成良好 径は反転復元
28	鉢 黒色土器	内・外面横ナデ、端部串状の物によるナデ	横方向篦ミガキ、下部横ナデ	横方向篦ミガキ、底部ナデ	橙	細砂少量含む	焼成良好 径は反転復元
29	杯 黒色土器	横ナデ？	成形時の凹凸残る。高台貼付部横ナデ	横ナデ？	橙	細砂若干含む	焼成良

30	杯 黒色土器	内・外面横ナデ	成形時の凹凸残る。底部及び高台貼付部回転ナデ	暗文状の横方向箆ミガキ	淡黄褐	粗粒砂・雲母を含む	焼成良好
31	杯 黒色土器	内・外面横ナデ、端部内側箆先による回転押え	成形時の凹凸残る。底部及び高台貼付部回転ナデ	暗文状の箆ミガキ	淡灰橙色	砂を少量含む	焼成良好
32	杯 黒色土器	内・外面横ナデ、先端部つまみナデ	横方向ナデ、高台貼付、底部成形時の凹凸残る。	横方向の暗文	淡褐色	金雲母を多く含む	焼成良好
33	甕 土師器	内・外面横ナデ	板ナデ、底部ナデ	上部箆ケズリ、底部ナデ	外面橙、内面にぶい橙	粗砂・雲母多く含む	焼成良好
34	杯 土師器	内・外面横ナデ	成形時の凹凸残る	ナデ	橙	細砂・雲母若干混入	焼成良 径は反転復元
35	皿 土師器	内・外面横ナデ	横ナデ、底部成形時の凹凸残る	ナデ後暗文、底部成形時の凹凸残る。ナデ後、半円形の暗文	赤橙	粗粒砂混入	焼成良好
36	椀 須恵器	内・外面横ナデ	横ナデ後、文様を施し把手を接続させる。底部は箆ケズリを残す。把手は欠落。なお凹線は横ナデ調整前である。	横ナデ	灰	細砂若干混入	焼成良好
37	蓋 須恵器	内・外面横ナデ	横ナデ	横ナデ	灰		焼成良好 径は反転復元
38	杯 須恵器	内・外面横ナデ	横ナデ、高台横ナデ、端部箆ナデ、底部箆ケズリ	横ナデ、底部回転ナデ	青灰		焼成良好
39	杯 須恵器	内・外面横ナデ	横ナデ、高台貼付後横ナデ、底部ナデ	横ナデ	淡青灰	粗粒砂少し含む	焼成良好 径は反転復元
40	杯 須恵器	内・外面横ナデ	横ナデ、高台貼付後横ナデ	横ナデ	灰白	粗粒砂混入	焼成良好 径は反転復元
41	杯 土師器	内・外面ナデ	高台貼付後ナデ、底部粘土ヒモ痕残る	ナデ	明赤灰	砂・雲母若干混入	焼成良好 径は反転復元
42	杯 瓦　器	端部内側箆先押え	暗文	成形時の凹凸が残り、その上に暗文を施す	黒		焼成良好 径は反転復元

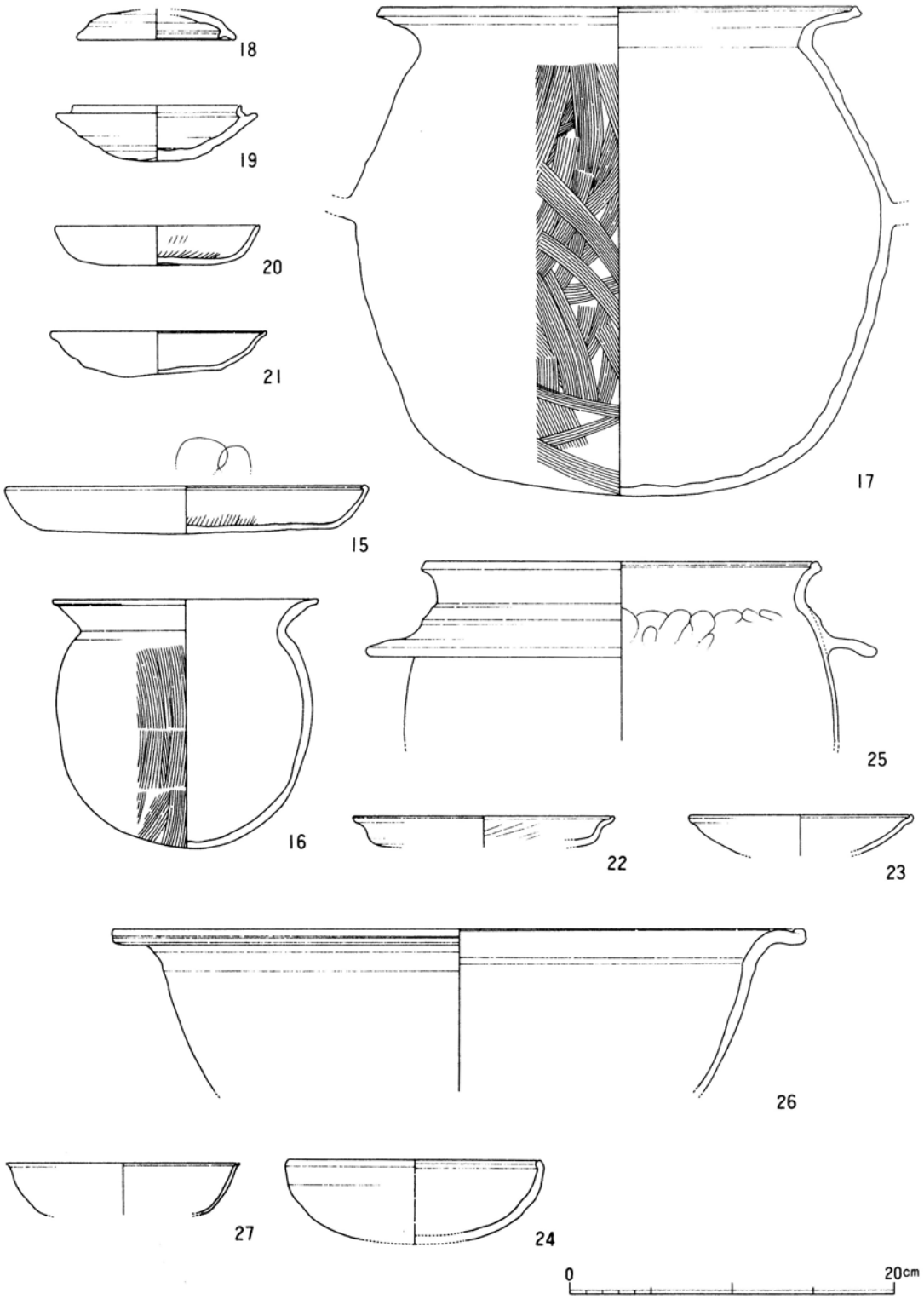




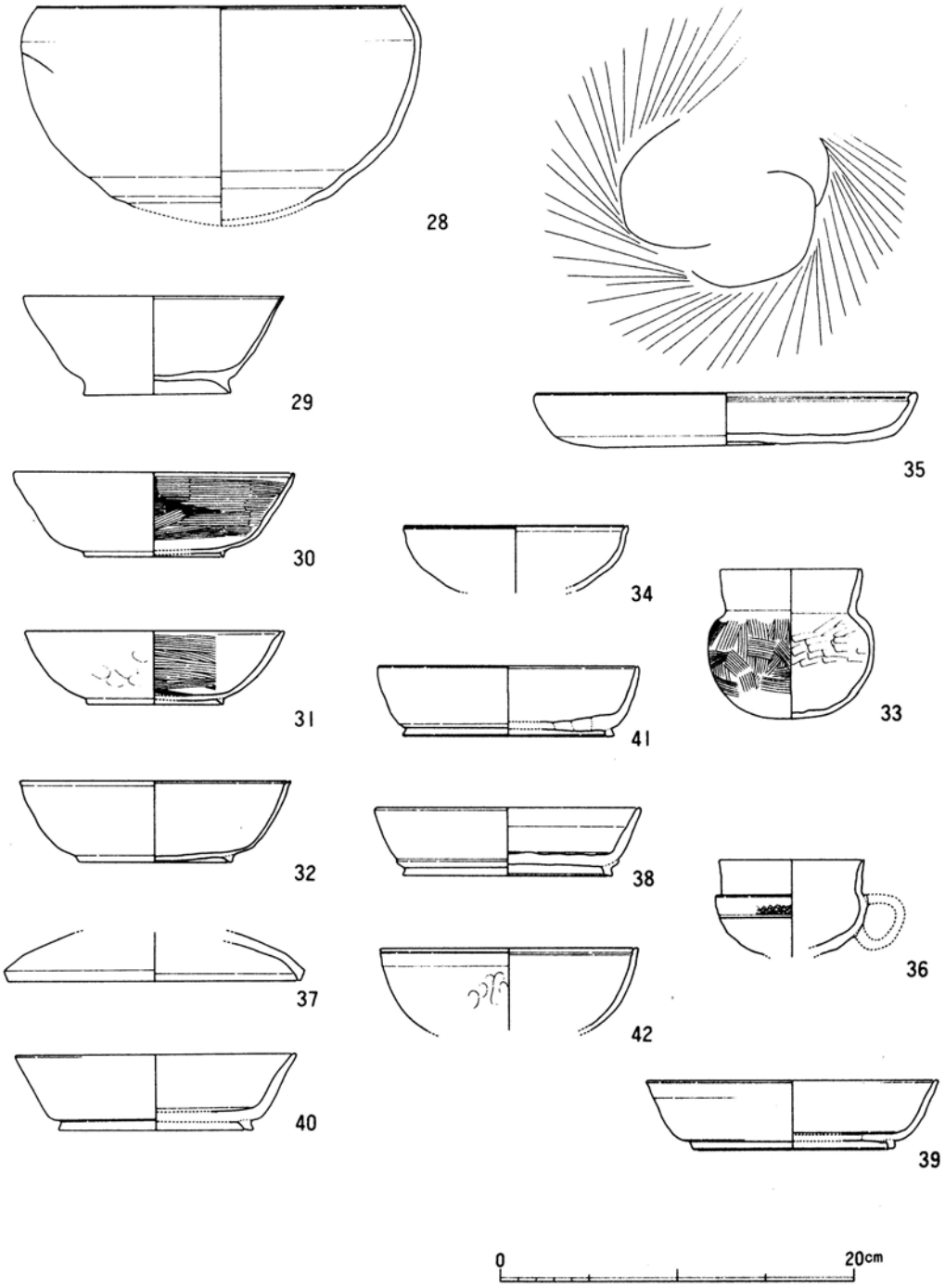
土 器 図 1



土 器 図 . 2



土 器 図 3

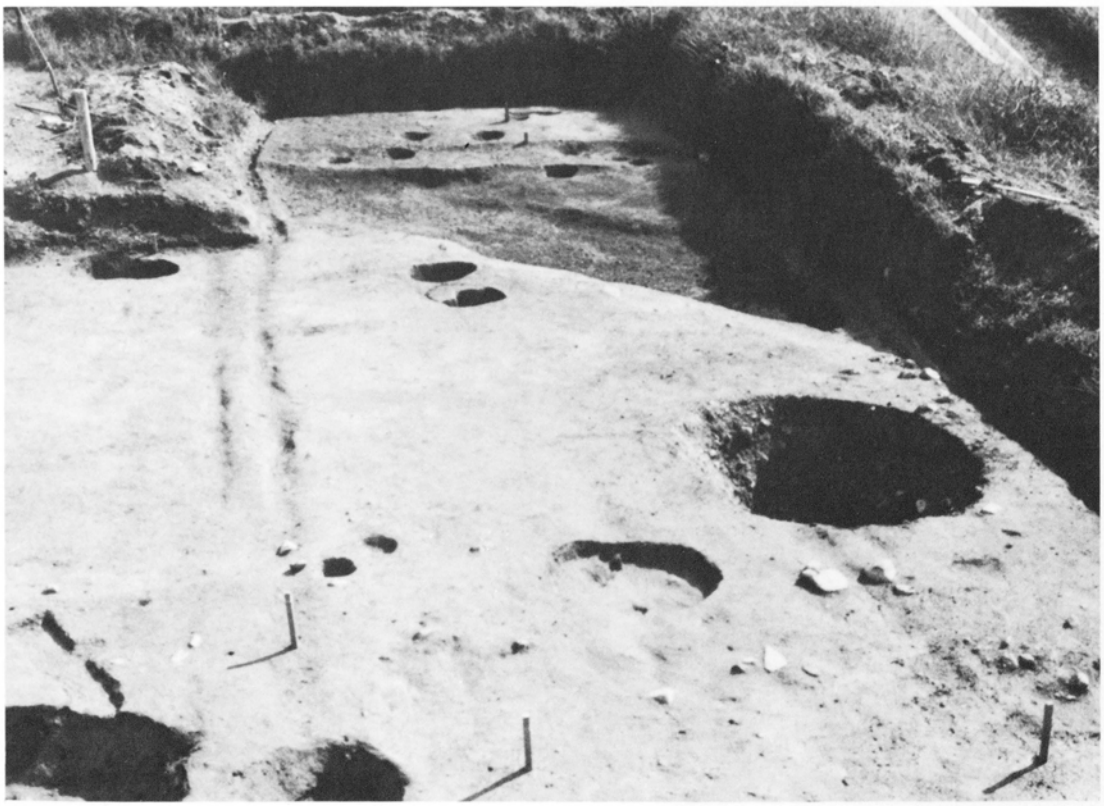


土 器 図 4

図版1　纒向遺跡　近傍の地形

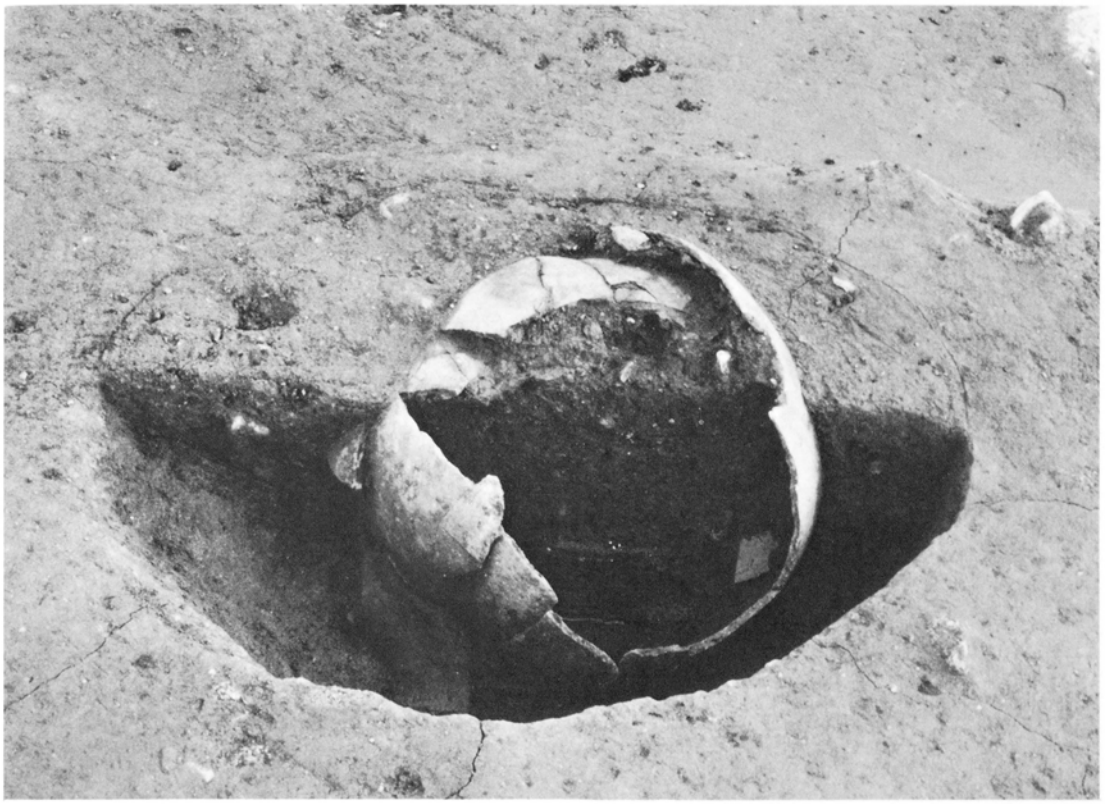
図版2　A調査地区

西より



溝・土壙

図版3　A調査地区



壺棺

同上墓壙

図版4　A調査地区

土壙内土層堆積状態

同上遺物出土状態

図版5　A調査地区

長方形竪穴及び井戸

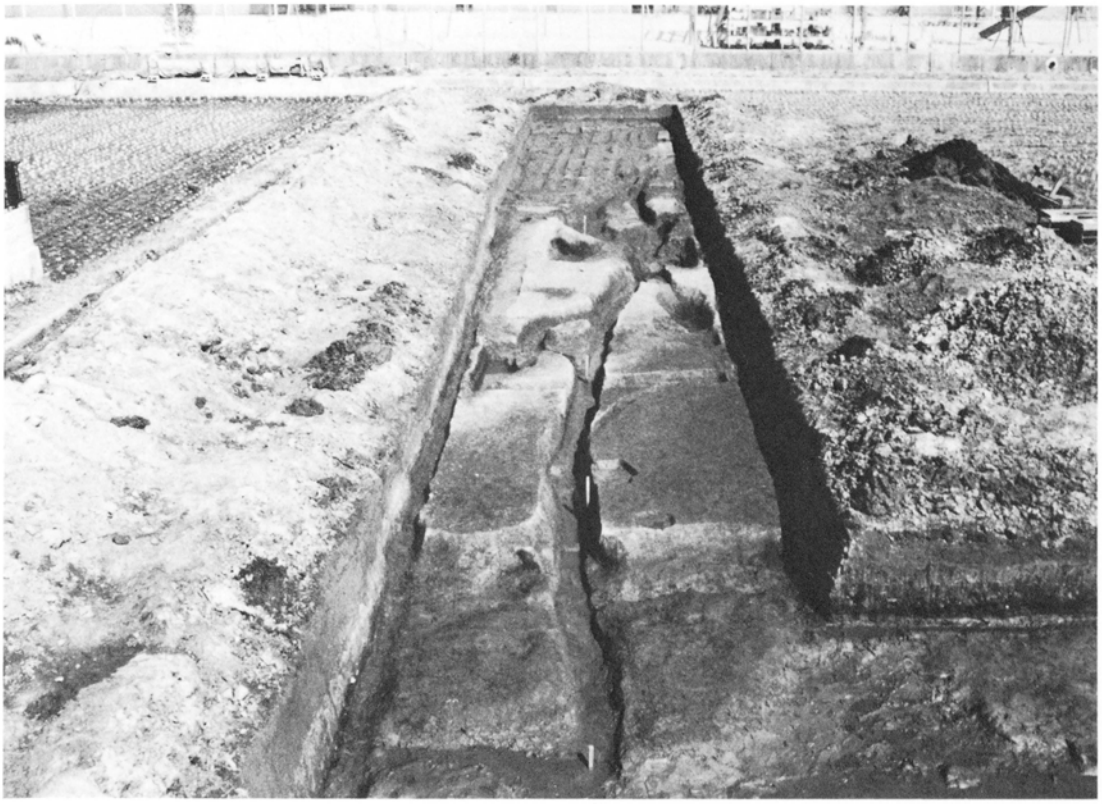
同　上

図版6　A調査地区

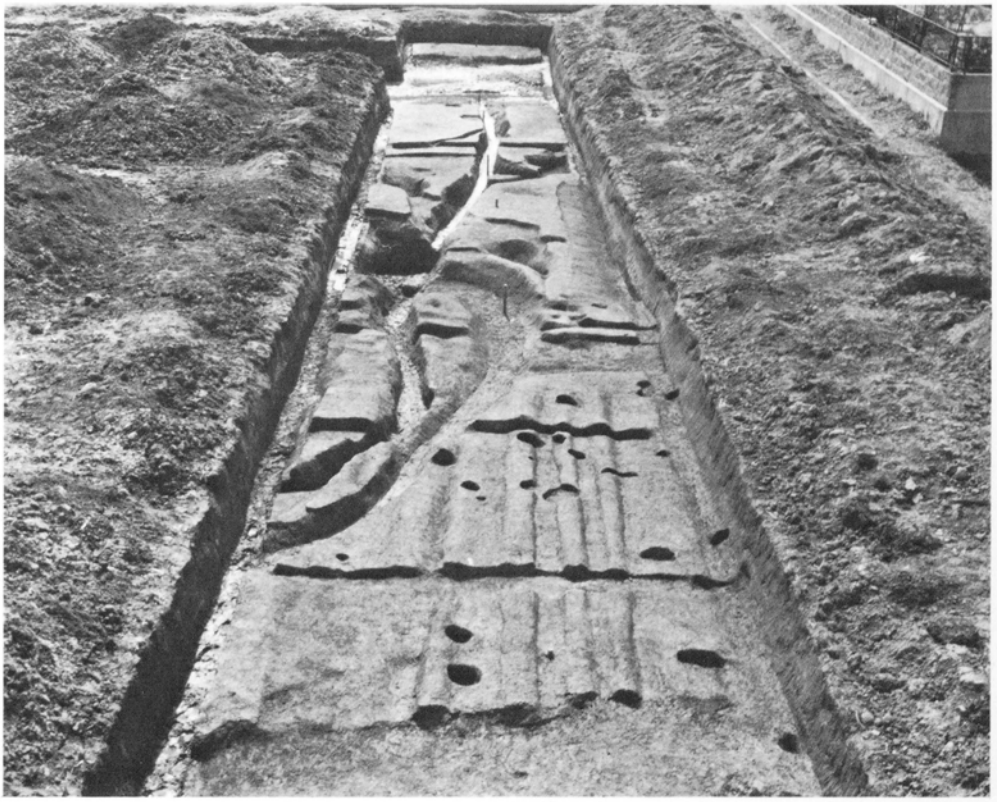
井戸底部井戸枠遺存状態

井戸埋土内遺物出土状態

図版7　C調査地区



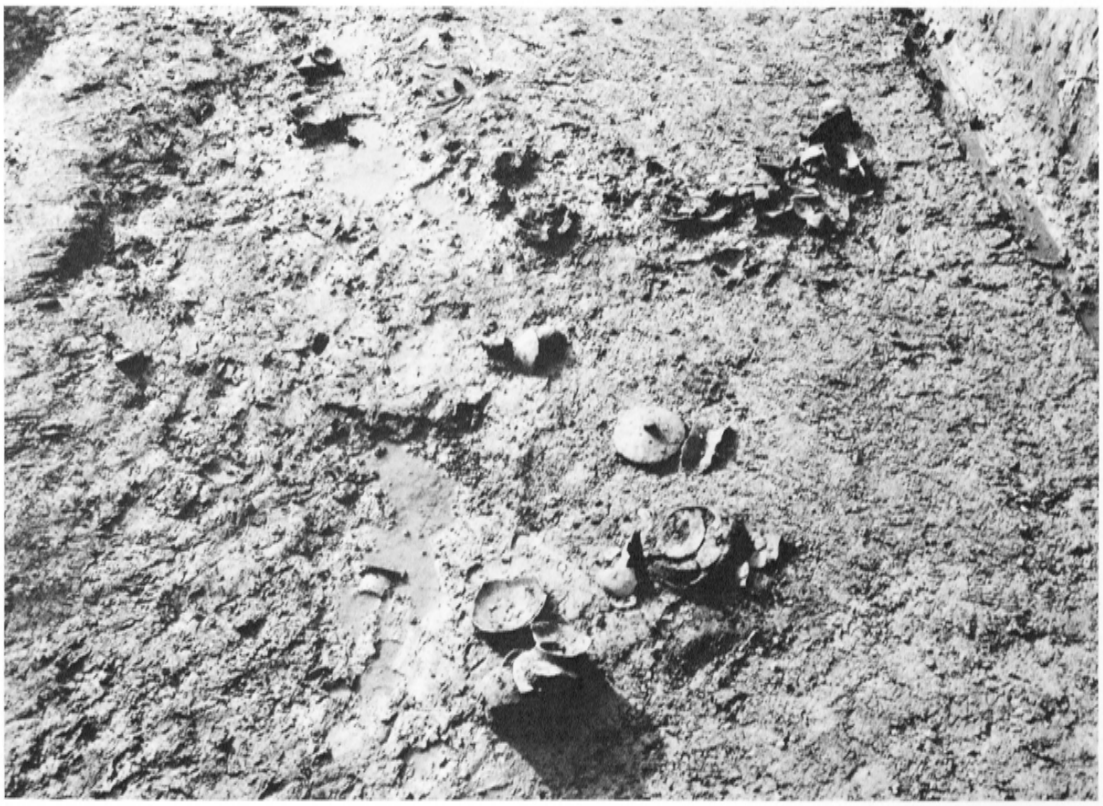
南北トレンチ（南より）



南北トレンチ（北より）

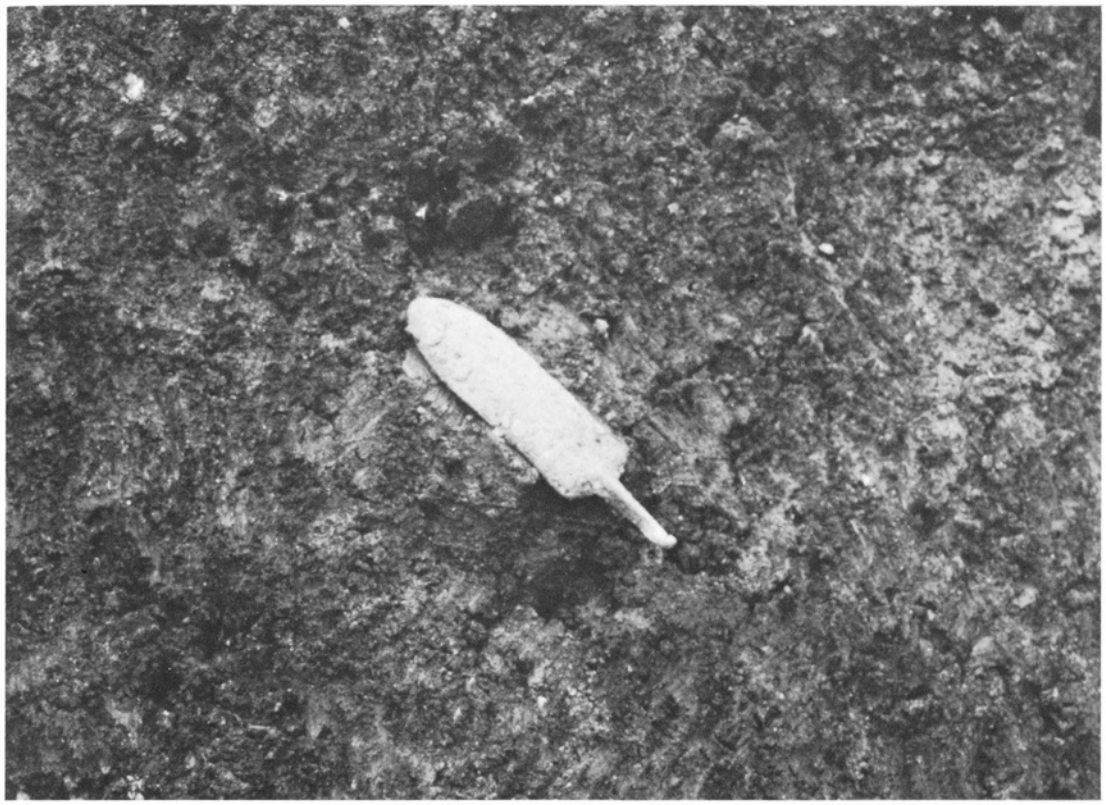
図版8　C調査地区

東西トレンチ（西より）

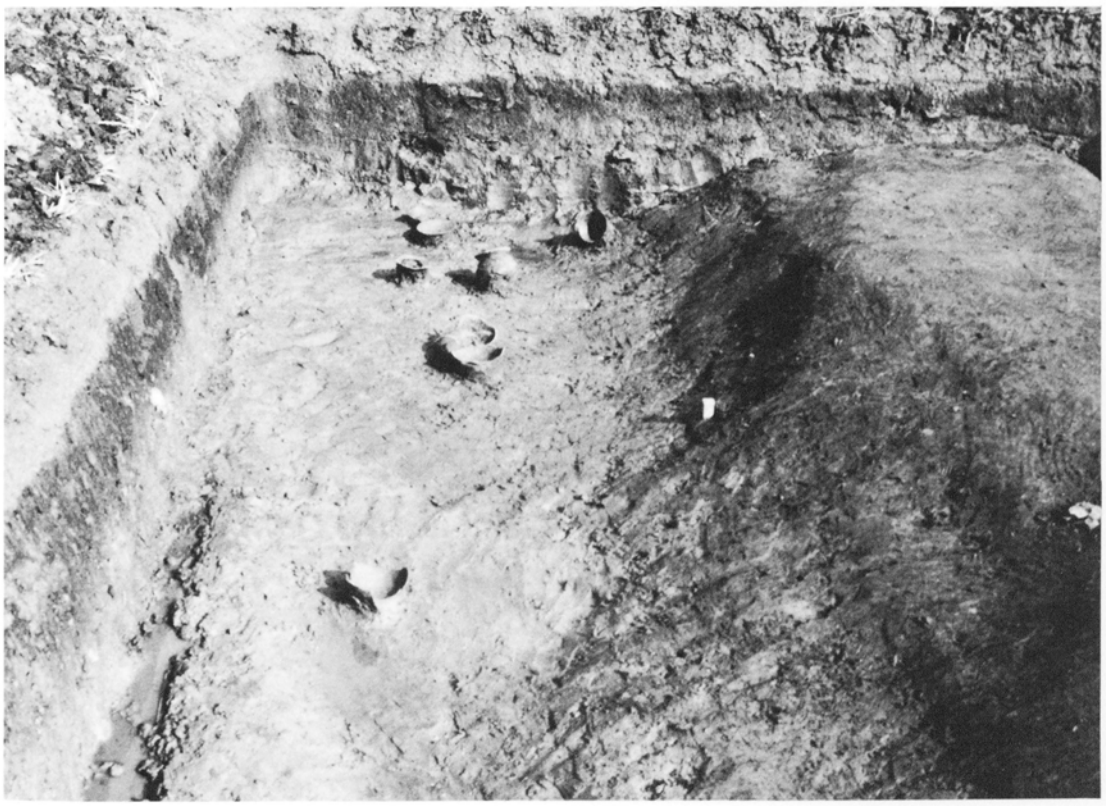


溝埋没後遺物出土状態

図版9　C調査地区

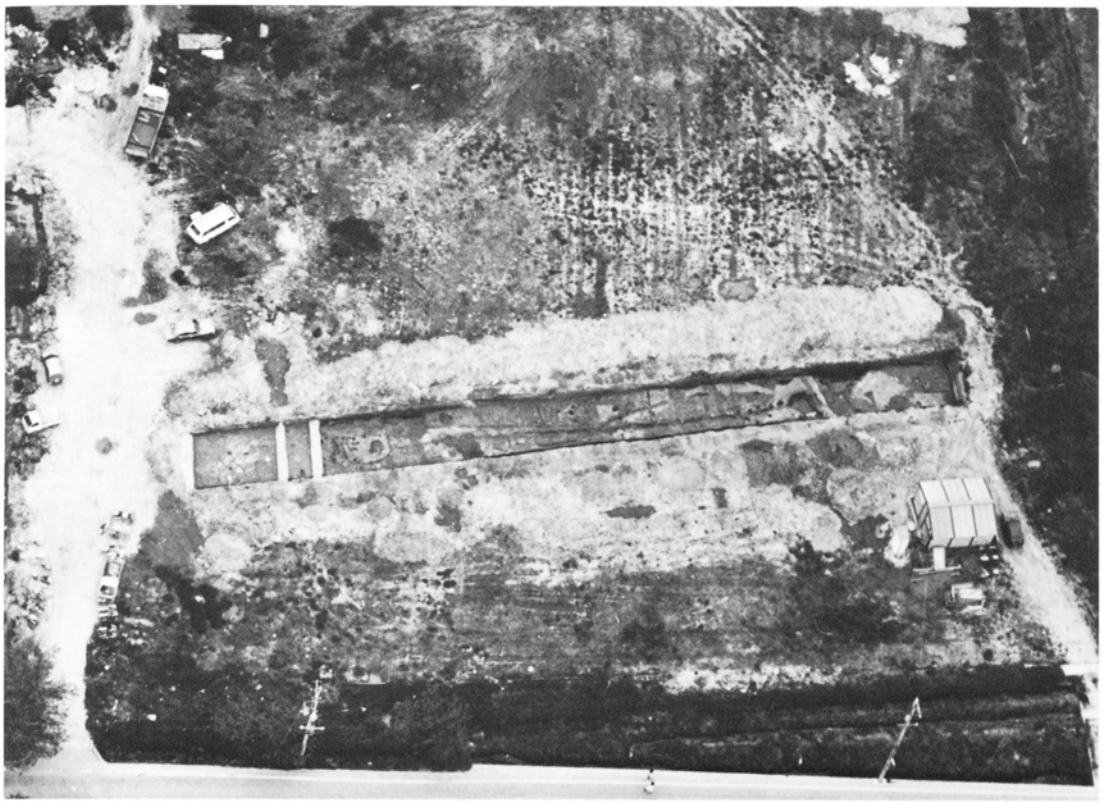


銅鏃出土状態



溝底部土器出土状態

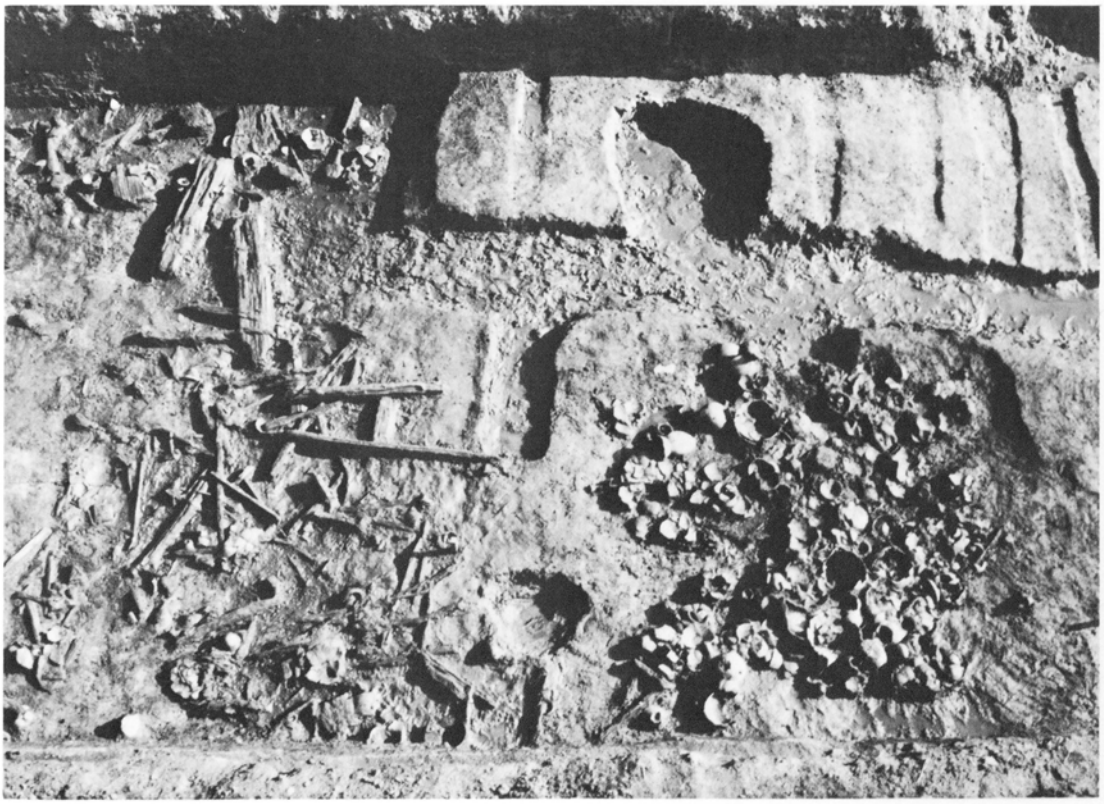
図版10　F調査地区



東西トレンチ航空写真

西より

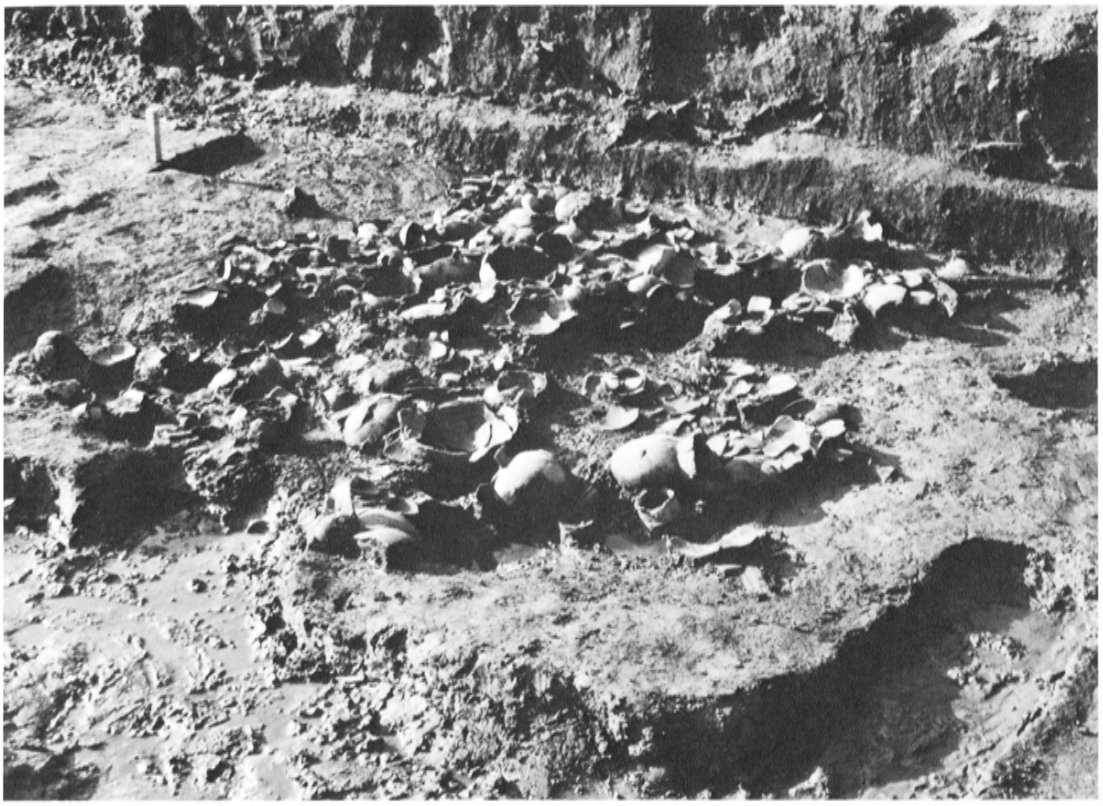
東より



溝及び凹地遺物出土状態（北より）

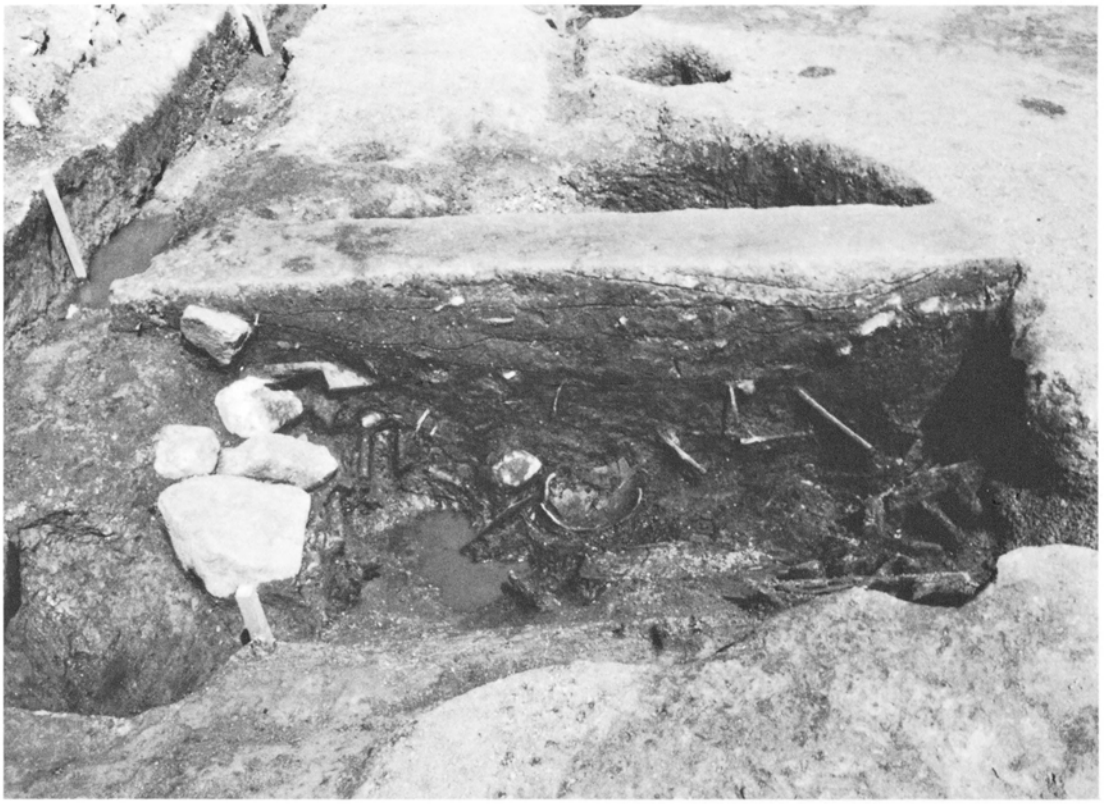
溝内遺物出土状態（北より）

同　上（南より）



凹地内土器出土状態

西土壙



東土壙遺物出土状態（西より）

東土壙全景（南より）

東土壙木製品出土状態

同　上

馬場ワキ地区出土深鉢（縄文式土器）

馬場ワキ地区出土壷棺

纒　向　遺　跡

昭和56年度遺跡範囲確認発掘調査概報

昭 和 57 年 3 月 印 刷
昭 和 57 年 3 月 発 行

発　行　奈良県桜井市教育委員会
奈良県桜井市大字粟殿432－1

編　集　桜井市教育委員会事務局
社 会 教 育 課
07444－2－9111

印　刷　株式会社　奈 良 明 新 社
奈 良 市 橋 本 町 36 番 地
T E L 0742－23－3131